

# 保姆養成に當りて

柳城保姆養成所 エヌ・ボーマン

國を擧げての堅忍持久、國民精神總動員の強調せられて居ります今日、吾々保育に又其の任に當るべき者を養成致し、  
す者達も一致協力致しまして保育報國の精神の實を上げんとの善き企を喜んで賛成致す一員でございます。

保姆養成に當りまして本校の要旨をいたしますところは、幼稚園保姆に必要な教育を施し、且基督教主義に基きて人格の修養に努むるこの目的を持つて保姆の養成を行つて居ります。次に二、三具體的に申述べませう。

## 一、實習の大切

一、考案力、創作力、研究心を養ふ

一、宗教的敬虔と知識の涵養

## 一、實習の大切に就いて

幼児の保育に大切なることは、能く子供を理解し其知識身體道德及び社交性(智育體育德育)を圓滿に發達させ、生涯有意義なる人格の持主となるやうに導いて行く事でありませんが、それには女學校の教育だけでは充分であるとはいへません。更に幼児保育に關する研究をなし又其の實習をなし保育の學理と實際を兼ね備へる事、又保姆としてのみならず幼児教育を認めつゝ、若きうちより其心に自我を捨て幼き子供に事へる眞面目な母心を養ふ事が大切であります。

## A、自習生として

理解に困難な抽象的な教授法を講義するよりも、出来るだけ早く（本校に於ては一年生より）生徒に實地に當らせて居ります。實習生として生徒は豫め教授法管理法の計畫書を提出させ教師はよくその實際を見て、後に生徒と共に失敗成功について愛をもつて批判し、又發表させて向上進歩につまめてゐます。

#### B、善き保姆を備へておくこと

信仰經驗、知識に富む善き保姆を備へて、彼等の子供に對する日々の凡てを（保育にばかりならず人格的接觸）目のあたり見る事により子供に對して興味、子供の世界、子供の人格の尊重——又保育法に就いてもよき知識と經驗を與へられ、時々實習生には保姆達の保育法に就いて彼等の知識に基いて批判させそれを計畫書の如くに提出させるやう務めて居ります。

#### C、音樂について

幼稚園の保育に缺く事の出来ない情操教育の大いなる役目をなす音樂に就いて、當養成所にては毎學期一回づゝ生徒に發表會を開かせ、各々の努力進歩熱心の心を養つて居ります。

自力に伴はない名曲を無味乾燥な弾き方をするよりも、平易なるものゝ内に十分力を發揮させるやうに努め、直接幼稚園に必要な遊戲のため又マーチ歌なき個人的に練習させて將來の爲に役立せる事。

#### 一、考案力、創作力、研究心を養ふ事

詰込み主義の女學校教育に於ては、十分に考案させる事、創作させる事、物事に對して眞剣な態度を以つて研究させる機會が少く、その力は乏しいやうに感じられ、廢物利用なきによりいろ／＼獨創的な試みをいたして居ります。又進取的精神の涵養にも意を用ひ。科學的知識に基きて具體的に自然界の凡てに全體。昆蟲草木石親しみの心を持たせ、その中

に入り子供の興味と一致をはかりつゝ自發的に研究させ、發表させ、又實習保育の機會に於て直接に應用させるやう努めて居ります。

### 一、宗教的敬虔と知識の涵養に就いて

宗教的敬虔こそ言葉によらず行狀によりその雰圍氣によつて涵養すること

養成所を主イエスを中心とした宗教的な雰圍氣を作る。其爲に朝に夕に教員生徒共に禮拜堂に集ひ、全能なる天の父を禮拜し讚美し朝ごに豊なる恵みをおぼへつゝ各々の勉學仕事にベストを盡すべく心がまへを養ふのであります。自然界の研究に於ても單純なる心情のうちに創造主なる神の力に感激させ、信仰心を持たせるやうに導く、後之が幼き者達へもよき宗教心の現れのもよくなる事を望むものでございます。

### 養成に當り實際の經驗として

十八、九歳の人世に於てやうやく自己を認め自己の力に頼らんとの氣持盛なる女子青年達が保姆を志し養成されて行く時に、一年の時代より二年の時代に實習時間が多くなり、子供に接する機會の多くなる程彼等は自己の不足さに氣が付きはじめ「幼き兒を我に來らせよ」の主の御聲に従ひ、主に頼りつゝ子供の進歩を願ひ、自己の全靈全身を捧げんとの決心を強められ、よき母心を保育方面にも經驗を進歩を發見し、又信仰の成長と共に己を第二として子供又はその親家庭にも親しく接して徐々に批判力も養はれ、さかく現在の社會情勢に乏しい彼等も段々深く廣く進んで行くやうな感じを深くいたします。

尙生徒の寄宿舎制度に就きましても、保姆がお互ひに共同生活の準備として人を己に勝れりとの潔き奉仕の心より出て己の短を補ひ、他人の長所を見出し満し満されつゝ規則的な生活のうちに人格の圓滿なる者さされながら、又單純な

る料理も實際に習得しつゝ、經濟的にも啓發されん事を望み、將來のよき準備のために設けて居ります。

八

最後に我々も凡ての事を凡ての人の心に適ふやうに力め、人々の救はれんために己れの益を求めずして多くの人の益を求むるなり。

この尊き何物にもかへがたき犠牲の心こそ吾養成所に於て養はれん事を切に望み、常に信仰を希望し愛に満されて、よき保姆、保育者、子供の友となり、第二の日本國民のその双葉のうちより正しき道に歩ましめ、將來ますます國威を發揚し、世界の文化平和の爲に貢獻するところ多いならん事を切に願ひつゝ、又この事業の益々發展されん事を祈る次第でございます。

## 保姆養成に就て

東京目白保姆學校 和田實

私は、明治三十八年以來、保姆養成には、随分、苦心して來たものである。此機會に其經驗の一端を述べて見たいと思ひます。

私が、幼稚園の仕事を爲始めた頃は、世間ではまだ、今日程、幼稚園の重要性を認めては居ませんでした、そして、稍々もすれば幼稚園に對する非難の聲が、相當、高かつたものです。中には文部省の御役人が堂々名乗つて、幼稚園の不要を新聞紙上に發表するご云ふ様なごもありました。夫等の人の重なる幼稚園反對論の主點は